

消化器内科

| | | |
|-----------------|---|----------------|
| 当該診療科の特長 | 当科では消化管・肝・胆・膵の消化器全領域において、地域の中核病院としての責務を果たすべく、近隣のクリニック、病院等と連携して質の高い医療を提供できるよう日夜努力しています。2021年度より消化器内科は3名の常勤医と非常勤医にて、各医師が個々の専門分野を生かしながら診療を行っています。また、日本消化器内視鏡学会および日本消化器病学会指導施設として、研修医・専攻医の診療指導にも力を入れている。 | |
| プログラムの特長 | ①消化器疾患全般について幅広い知識を習得する。 ②問診、身体所見を把握することができ、診断および治療計画を立案できる。 ③各種の検査手技に加え、専門的な治療手技を習得する。 ④各学年を通じて、日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会等での発表を行い、日本内科学会の認定医習得後に専門医習得を目指す。 | |
| 到達目標 | 【1年目の行動目標】 ・消化器疾患を学ぶため担当医として入院患者の診療にあたる。 ・週1回程度の初診外来業務に従事し診断能力を高める。 ・腹部超音波検査、上部消化管内視鏡検査を独立して施行できる。 【2年目の行動目標】 ・主治医として診療を行い上級医の指導のもと主体的に臨床経験を積む。 ・消化器内科医として外来業務を行う。 ・下部内視鏡検査、ERCP検査を独立して施行できる。 ・内視鏡的治療手技（止血術、EMR／ESD等）および超音波ガイド下穿刺手技（肝生検、PTCD、PTGBD等）の介助者となり技術習得に努める。 【3年目の行動目標】 ・日常臨床で遭遇する疾患に対して主体的に検査・治療を計画し実行できる。 ・それぞれの検査手技をさらに研鑽し症例数を増やす。 ・各人の到達度に応じて内視鏡的治療手技（止血術、EMR／ESD、EST等）、超音波ガイド下穿刺手技（肝生検、PTCD、PTGBD等）を行う。 | |
| 研修期間 | 3年間 | |
| 取得可能な資格等 | 学会名 | 取得可能な資格 |
| | 日本消化器内視鏡学会 | 日本消化器内視鏡学会専門医 |
| | 日本消化器病学会 | 日本消化器病学会専門医 |
| 指導体制 | 指導医：3名 | |
| その他 | 大学医局への所属、未所属へ関係なく全国より専攻医を受け入れている。 | |